

第 8-5 号

耕 人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

令和元年9月28日(土)

「一步を踏み出す勇氣」について

第 15 回少年の主張（東松島市大会）で優秀賞を受賞した矢本第二中学校三年阿部航大君は昨年度の『耕人塾』塾生（今年度は受験等のため不参加）です。阿部君は矢本リトルシニアに所属し、教学委員の高橋智幸さん（『耕人塾』1 回生、矢本リトルシニア監督）の紹介で 4 人の仲間とともに『耕人塾』に入塾し、積極的に活動しました。石巻日日新聞 (R元. 8. 29木) に掲載された弁論内容の要約から、「一步を踏み出す勇氣」について考えてみたいと思います。

あの日、あの場面、あの一球・・・そこに一步を踏み出すことができなかつた自分がいた。フォアボールを恐れた私は、全力で投げることを選びませんでした。その一球は、レフトの頭を越え、3 点追加のスリーベースヒットに。その試合は 5 対 4 で敗戦。私が投げたボールがチームに与えた影響は大きかつたのです。「なぜ全力で投げなかつたのか」ととても後悔しました。「自分には一步を踏み出す勇氣があるはずなのに・・・」と。

私は硬式でプレーするシニアリーグに身を置いています。そのシニアのチームに入ろうと決意することは簡単ではありませんでした。体験練習は厳しくこれから続けていくことが不安で足が動きませんでした。しかし、「このままではいけない。変わらなければ」。練習に参加する決意をした私は、勇氣を振り絞り、動かない足を一步踏み出しました。その日はいつもと違い、恐れることなく家を飛び出せました。練習もなぜか楽しく感じ、何かが吹っ切れたように「シニアに入ろう」と思うことができたのです。この小さくて、そして大きな一步を踏み出せたこと。これが、自分の中でとても大切な経験になりました。

(略)

踏み出せずに後悔し、踏み出しきれずにまた後悔し、そしてまた踏み出す。過ちを繰り返すこともあります。「一步踏み出した」という経験が、私にまた新たな一步を踏み出す勇氣を与えてくれたのだと思います。私の将来の夢は「中学校の教師」です。「踏み出せなかつたときの後悔」と「勇氣を持って踏み出したときの達成感」その両方を私は知っています。何かを始める前から諦めたり、挑戦したりできない生徒は実際たくさんいるでしょう。そのような生徒に、「踏み出せたときしか見られない景色」を私は見せてあげられるような教師になりたいです。そして伝えたい。その一步は未来につながる一步だと。

後悔を「一步を踏み出す勇氣」によって達成感につなげた素晴らしい内容ですね。阿部君の体験に感動し、9 月からの日記（今年 3 冊目）の題を「枠を破る」にしました。今年もあと 3 カ月余りになりましたが、挑戦しようと思っていることが 3 つあります。その報告を 12 月 14 日（土）の『耕人塾』閉塾式に皆さんに報告したいと思っています。皆さんも「一步を踏み出す勇氣」を持って、何かに挑戦してみませんか？

教学委員学生部・塾生「いしのまきスイーツマップ」作成

『耕人塾』塾生の生平愛依（おいだいらめい）さん（大原簿記情報公務員専門学校 1 年）、阿部真理香さん（石巻専修大学 1 年）、初貝優香さん（桜城高校 2 年）の 3 名が東日本大震災支援財団の展開する「ユースアクション東北」の支援を活用し、「いしのまきスイーツマップ」を作成し、市内の駄菓子屋や洋菓子店など 10 店舗の地図や各店一押しのお菓子と店の外観の写真を付けて配布しています。

『耕人塾』での取り組みがいろいろな活動に発展していることが嬉しいですね。『耕人塾』の今年度のコンセプト（活動指針）は「主体・楽しさ・創造」です。3 人で作成したスイーツマップのように、『耕人塾』で学んだことを基にいろいろなことに挑戦してみることで、新しい自分を発見することができるかもしれませんね。皆さんが挑戦していることを教えてください。楽しみにしています。